

令和七年度 熊本県立大学文学部
日本語日本文学科 特別選抜 学校推薦型選抜
入学試験問題

小論文

【注意事項】

- ① 試験開始の合図があるまで、問題用紙を開いて中を見てはいけません。
- ② 問題用紙は、この表紙を含め五枚あります。
- ③ 解答用紙の指定の欄に、受験番号、氏名を記入しなさい。
- ④ 解答は、必ず解答用紙に記入しなさい。
- ⑤ 問題用紙の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
- ⑥ 試験終了後、問題用紙及び下書き用紙は、持ち帰ってください。

(問題文は、3ページからです。)

次の文章は内田百閒が昭和十一（一九三六）年に発表した「入道雲」の全文である。よく読んで後に記す設問に答えよ。なお、解答用紙へ記入の際は、正しい原稿用紙の使い方に従うこと。

著作権保護の観点から、問題文は掲載していません。

（内田百閒『北溟』旺文社、一九八二年二月）

注 小石川雜司ヶ谷の盲学校 Ⅱ 小石川雜司ヶ谷は、隅田川西岸で川からは比較的距離のある地域。盲学校はそのやや高台にある。

被服廠跡 Ⅱ 隅田川東岸の本所・深川にあった軍服などを作る工場の跡地。関東大震災時の火災では、避難していた三万八千人もの命が失われたとされる。

「長春香」 Ⅱ 線香の名前。ここでは、百閒からドイツ語の個人指導を受けていた長野初が被服廠跡で亡くなったのを強く悼む気持ちの象徴として用いられている。百閒は他にも長野初への哀悼の念を示す文章をいくつか発表している。

問

① 本文の最終段落より前（冒頭より「……お金を持て餘した。」まで）の文章を災害時の記録として捉えた場合、着眼点や描写の上で注目されるのはどのようなところか、百閒の目に映った部分と百閒自身の内面に関わる部分との双方について、四〇〇字程度で説明せよ。

② 本文の最終段落は、叙述上の時間が「当日の午後」に戻って書き進められている。百閒が改めてこの段落を置いた理由について、自身の考えを三〇〇字程度で述べよ。